
遊戯王 FOR THE BEST WORLD

CHOOSE

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 FOR THE BEST WORLD

【Nコード】

N6370T

【作者名】

CHOOSE

【あらすじ】

高校生デュエリスト史城遊太は、デュエルモンスターズ界では世界屈指の実力を誇っていた。ある日遊太は謎の光とデュエルを始めるが、それは禁断の闇のゲームだった。遊太は何とか勝利し、新しいチカラ『ベスト召喚』を手に入れる。遊太は『熱き魂』を持つデュエリストとして多くの仲間と、『冷たき魂』を倒すため奮闘する！

1 - 史城遊太 - (前書き)

初めまして、CHOOSEです！ボクは一応ポケモンと遊戯王が好きなんで書いてみる事にしました。皆読んでってね！

1 - 史城遊太 -

何だよ、デュエルってこんな辛いモンなのかよ……。この場を包む異様な殺気、徐々にその鼓動が弱まっていく心臓。オレはこんなデュエルをしなくちゃならねえ、『熱き魂』を受け継ぐデュエリストだつてのかよ……。

オレの名前？聞いてもどうせ忘れるだろうが、一応教えておこうか。史城遊太^{しじょうゆうた}高校生、デュエル歴は結構長い。オレはデュエルモンスターズのおかげで、今の満たされてる生活にいられる。中学の時、オレは世界大会で優勝し莫大な賞金と永遠に近い名誉を得た。以来、オレのそこには毎日多くのデュエリストがやってくる。ま、全部勝つてるけど。

「は、もつと強い相手と闘いてえな」

『なら、オレとやろうぜ』

始まりはこの声の主との出会いだった。ソイツはオレの頭に話しているの、見えなかった。目を閉じると、強い光のイメージが映った。どうやら話してきたのは、この光らしい。なんてSFだよ……。

オレはソイツとデュエルをする事になった。だがこのデュエルが、命がけだとは全く思わなかった。

「ハア、ハア。くそ、何て強さだ……。オレのドラゴンデッキが、こつも簡単に……」

コレは『闇のゲーム』だ。まさかホントに、こんなデュエルが存在するなんて……。後悔した時には、時既に遅し。オレのライフ

は残り1000を切り、対する相手はライフが2000以上。オレはさっきヤツが言っていたルールに恐怖していた。

『負けた者には、それ相応の罰を与える』

「くそ、罰って何なんだよ・・・？イヤ、このデュエルに勝たなきゃいけない。体がぶっ倒れる前に」

オレのターンが終了し、相手のターンになった。

『オレのターン。オレは『刺客の怪』を守備表示で召喚し、更に魔法カード『半融合』を発動。まだキミは見せてくれないのか、『熱き魂』のチカラを』

んなモン出せたら、オマエなんかとくに倒してるっての・・・。
全く、突然やってきてデュエルふっかけて『熱き魂』を持つキミなら勝てるだど！？無茶言うな、こんなデュエルとつと終えたいぜ。

『『半融合』は、自分フィールド上に表側表示で存在する融合素材となるモンスターをコストに、攻撃力と守備力を半分にして融合モンスターを特殊召喚する。出でよ、『大食らいの刺客』』

ソイツは融合モンスターを場に出し、オレに攻撃してきた。

『『大食らいの刺客』で、『ランドドラゴン』に攻撃。ローリングプレス』

「させるか！罌カード、自主退場！このカードは相手のレベル5以上のモンスターの攻撃を無効にし、相手のデッキの一番下に戻す！」

『巧くかわしたな、『大食らいの刺客』をデッキに戻そう。オレはターンを終了する』

何とか攻撃は凌いだが、依然不利な状況には変わらない。ココからどう攻めていくか、それが鬼門だ。

「オレのターン！『ランドドラゴン』の効果を発動し、コイツの攻撃力を400ポイント上げる！コレで攻撃力2400、あの真紅眼と同じだ！」

今、ヤツの場合は空いてる。直接攻撃すれば、オレの勝ちが確定だ。しかし、ココまでオレの手を読んでいる相手。恐らく伏せてあるカード3枚のうち1つは、オレの攻撃を無効にするカード。もしくは、戦闘ダメージをこっちに返すカードだ。しかし、罠に怯えてたらオレのライフは次のターンに確実に減らされる……。なら！

「バトルだ！直接攻撃で、オレの勝ちだぜ！」

『永續罠』^{えいぞくトラップ}『竜族滅殺』をライフ1000をコストに発動、このカードは相手フィールド上のドラゴン族モンスターの直接攻撃時にのみ発動できる。そして、その攻撃してきたモンスターを破壊し互いのプレイヤーは、このカードがある限りドラゴン族をフィールドに出す事ができない』

『竜族滅殺』・・・だって！？おい、それはレア・オブ・レアじゃねえか！ドラゴン族のオレには、最低最悪のカードだ・・・。

「くそ、魔法カード『竜の嘆き』^{マジック}を発動する。メインフェイズ2のみ発動し、墓地のドラゴン族1体を除外して相手フィールド上の力

ード1枚破壊する・・・！」

オレは『竜族滅殺』を破壊する事に成功し、ターンを終えた。

『オレのターン、墓地の『刺客の怪』の効果を使い手札から『双剣のプリエステス』を、レベル4で通常召喚。これで終わりだな、直接攻撃』

『双剣のプリエステス』は攻撃時に相手に800ポイントのダメージを与えるか、相手の手札を1枚墓地に送る。それを選ぶのは、オレだ。

「オレは800ポイントのダメージを受け、^{トラップ}罠発動！『巨竜の杯』は墓地にあるレベル4以下のドラゴン族モンスター1体を、表側守備表示で特殊召喚する！来い、『ギガドラン』！コイツは特殊召喚に成功したターン、能力が倍になる。よって守備力は2800、『双剣のプリエステス』の攻撃はコイツに弾かれる！」

『何？ククク、やってくれる。オレのライフは残り700、対するキミは200。どっちが勝つか解らなくなってきたな。オレはカードを1枚伏せ、ターンエンド』

何とか攻撃を切り抜けた。・・・コレが最後のドロー、オレの長年の勘がそう確信させる。

「オレのターン・・・！」

ドローと同時に、オレの脳裏にある映像が飛び込む。コレは・・・『ギガドラン』と『イーヴィルワイバーン』だ。そのカードが離れ、新たなカードが見える。こうすれば、オレもあのカードを呼べるの

かな……。やってみよう、勝てるかどうかは解んねーけど。

「フィールドの『ギガドラ』と、手札の『イーヴィルワイバーン』を墓地に送る！」

2つのモンスターを墓地へ送った直後、オレの右手が熱くなり輝き始めた。『熱き魂』の意味が、今になってやっと解った。

『やはり『熱き魂』を持つデュエリスト、この場面で『ベスト召喚』を決めるか』

「黒き龍の王、現世（この世）の全ての悪を成して巨悪を討て！！ベスト召喚、来い！」

コレがオレの新しいチカラ、『ベスト召喚』！

「荒ぶれ、『ダーク・ジャスティス・ドラゴン』！！」

攻撃力、守備力共に3000。ブルーアイズ青眼に匹敵する、圧倒的パワー！

「『ダーク・ジャスティス・ドラゴン』は、召喚成功時に墓地にドラゴン族が5体以上あれば相手の手札を全て破壊する！！いけ、ファントム・ラッシュュ！」

『手札を全て破壊だと！？』

ヤベエ、何だよこのモンスター。自分で召喚しといて難だが、コイツはスゲエ。コレなら、勝てる！

「更に、破壊した手札の枚数×500ポイントのダメージを与える

！どうだ、オレの勝ちだ！」

『ククク、参ったよ……』

オレは闇のゲームに勝利し、ヤツに話を聞いた。

『オレの名は、バース。古の魂であり、キミのような『熱き魂』を持つデュエリストと共に生きる者。オレはキミを殺すつもりは最初から無かったが、キミがチカラを使えるようにするためより危機感をデュエルに加えた』

傍迷惑な話だ……。オレに『ベスト召喚』を教えてくれたのは嬉しいけど、マジで死ぬとこだったぜオイ。……今コイツ、キミのようなどか言ったよな？他にもオレみたいなヤツがいるのか！？

『古の魂は世界中にいる。その者とデュエルをし、勝利した者のみ『ベスト召喚』を使えるようになるんだ。オレは穏健派だから、ホントに命がけという事にはしてないが……。もしオレ以外の古の魂とデュエルをしたら、キミは確実に負けて地獄を見ていた。キミは幸運だな』

「そりゃどーも、で、どうすりゃ『熱き魂』を持つデュエリストだつて解るんだよ？」

そうだ、コイツは多分オレをピンポイントで狙ってきた。他の強いヤツそっちのけで。

『『熱き魂』を持つデュエリストと対峙すれば、問答無用で闇のゲームが始まる。闇のゲームの恐ろしさは、キミは体で解っているな。オレがいるから、今後の闇のゲームでの肉体ダメージは殆ど無くな

るよ。安心しな』

え？コイツひつついてくんの？・・・うわ~~~~・・・。

『オレと話す時はテレパシーみたく頭の中で話せば、周りに不審がられずに話せる』

・・・それなら、いいかもな。周りにおかしなヤツなんて、思われたくないし。

「あ、そうだ。地区大会が今度開かれるんだ！エントリー登録済ませておこう、うん」

オレは登録を済ませ、デッキの構成を始めた。無論ドラゴン族だが、毎度同じなのは味気ない。今度は『ベスト召喚』を考慮して、デッキを作ろう。

『『ベスト召喚』を中心とするデッキは種族統一は勿論の事、属性もできるだけ統一しておいた方が成功しやすい。オレは閻属性で構成するのが得策だと思う』

「確かに、閻属性はサポートカードが多い属性。組むにはコレが、一番無難だな」

オレ達は悩みに悩み、デッキ構成に力を注いだ。

1 - 史城遊太 - (後書き)

『ベスト召喚』は、自分フィールド上のモンスター1体と自分の手札のモンスター1体をリリースして特殊召喚する方法。この時リリースするモンスターは、属性と種族が同じでなければならない。(実際、OCGで使われる事になったら結構幅が広がりそうですね。)

2 - 『冷たき魂』 - (前書き)

今日は物理の再試、悲しくて泣いたよ。

2 - 『冷たき魂』 -

バース曰く、オレみたいなデュエリストはゴロゴロ在るらしい。『熱き魂』を持つヤツ以外にも、『冷たき魂』を持つヤツが在るという。『冷たき魂』もまた古の魂で、生前は罪人だったそうだ。つまりは、敵という事だ。もしかしたら、学校のヤツらの中にも在るかもしれないというのだ。

『遊太、闇のゲームの肉体ダメージはオレが殆ど無くしてやれる。だが、精神ダメージは無くせない。闇のゲームでは、気を強く保った方がかなりのアドバンテージになる』

「了解したぜ、バース。デッキはこんな感じだが、イケるか？」

バースからOKが出され、オレは大会用デッキを完成させた。

いよいよ始まった地区大会、この勝気市はあの童実野町の姉妹都市。デュエル大会は月1に行われ、デュエルの都市と言っても過言じゃない。

『ククク、遊太とはまだ当たらないな。オレもこの大会に参加登録している、当たったら今度は勝たせてもらうぞ』

え、オマエも参加するのかよ……。ま、いいか。早くデュエルしてゝな、早く早く！

「さあ！対戦カードの発表だ！デュエリスト諸君、確認タイムだぜ！」

おお！オレ初っ端じゃねーか、いいねいいね！……バースと当た

んなくてマジでよかった。

「最初の試合はイキナリ！デュエル騎士^{ナイト}、史城遊太の登場だぞおお！」

オレはデュエル界で、騎士と（ナイト）呼ばれている。キングになっちまったら、あの遊戯さんと同じ称号になっちまってもう高みが無くなる。だからオレは騎士^{ナイト}の名で、呼ばれる事にしたのだ。

「対するは、史城遊太の同級生の牛尾進^{うしおすすむ}だ！さあ、デュエル開始まであと5分だ！」

デッキの確認でもしておこう、相手は牛尾だ。学校1の馬鹿野郎だが、デュエルだけは強い。

「よし、行こう！」

オレと牛尾は、デュエル会場にゆっくり歩いていった。そして闘いの火蓋が、切って落とされる。

「デュエル！」

大会規定により、オレは先攻でなければならない。実はオレ、先攻で勝つ確率はそんな高くないんだ。

「オレのターン！ドロー……」

カードを引いた途端、オレは異様な殺気を感じた。コレはまさか、闇のゲームなのか！？

「カハハハ、『熱き魂』など持つ忌々しい男め。『冷たき魂』を受け継ぐこの牛尾、イヤ、ラール様が葬ってくれようぞ!」

牛尾のヤツ、完全に『冷たき魂』に憑かれてやがる。とにかく、このデュエルは勝つんだ!牛尾のためにも、必ず!

「オレは『イーヴィルワイバーン』を召喚し、カードを2枚伏せターンエンド」

「イキナリ攻撃力2100の、『イーヴィルワイバーン』を召喚したぞ!どう迎え撃つ、牛尾進!」

1ターン目はコレでいい。牛尾のデッキは『ダイバー』、攻撃性は高めじゃないが相手のペースを崩すカードが中心のデッキだったハズだ。

「カハハ、以前のオレと思うな。オレのターン!」

牛尾は恐らくモンスターを守備表示で出して、こっちに攻撃しない。【ダイバー】のカードの多くは、攻撃力が1500以下だからな。しかし、『以前のオレと思うな』って事は……。

「オレは魔法カード『メタン・ハイドレート』を^{マジック}発動、手札の水属性モンスター1体を墓地に送る事でそのモンスターのモンスターレベル×200ポイントのダメージを与える!」

牛尾は『ジェットダイバー』を墓地に送り、効果が発動した。『ジェットダイバー』のモンスターレベルは3、よってオレは600ポイントのダメージを受ける。だが、主導権は渡さないぜ。

「罾^{トラップ}発動、『バトルインスピレイション』！相手が効果ダメージを及ぼすカードを発動した時、そのダメージと自分フィールド上モンスター1体の攻撃力を比べ自分フィールド上のモンスターの攻撃力が効果ダメージの数値を上回っていれば、その差だけ相手にダメージを与える！うわっ！」

「おのれ！ライフが一気に1500ポイント削られ、2500に！」
主導権はちゃんと握れてるけど、ダメージを受けちまった。『バトルインスピレイション』は、結構オレの中では切り札に近いんだが仕方ない。オレのライフ、残り3400。

「おおっと、騎士^{ナイト}が早速奇抜な罾^{トラップ}を使っただぞ！牛尾に1500ものダメージ、流石は騎士^{ナイト}だ！」

奇抜な罾^{トラップ}って、罾は大抵奇抜なモンだよ。

「オレは『マグマダイバー』を守備表示で召喚し、ターンエンド！」
『マグマダイバー』は戦闘ダメージを0にする、厄介な壁モンスター。『クリボー』かよ、くそつたれが……。

「オレのターン、魔法カード『龍を称える石碑』^{マジック}を発動！デッキから攻撃力500以下のドラゴン族を2体、攻撃表示で特殊召喚する。出でよ、『瓶八竜』^{かめはやしゴン}に『ビクリユウ』！」

「この瞬間、相手のメインフェイズ1に魔法の効果で墓地に送られた『ジェットダイバー』が攻撃表示で特殊召喚される！現れるがい、『ジェットダイバー』！」

そういえば忘れてた。『ジェットダイバー』は魔法効果で墓地に送られた後、相手のメインフェイズ1にフィールドに特殊召喚されるんだっただ……。直接攻撃をかますつもりだったのに、失敗したな。

「オレはこの2体のモンスターをリリースして、『火銃龍王』マッドガナー・ドラゴンをアドバンス召喚！」

幸い、レベル7の『火銃龍王』マッドガナー・ドラゴンが手札に在った。攻撃力は2800と申し分無いし、モンスター効果が中々使えるヤツだ。

「オレは『火銃龍王』マッドガナー・ドラゴンで、『マグマダイバー』を攻撃！」

ココで攻撃しておけば、戦闘ダメージを0にする効果を発揮されずに済むぜ。

「更に、『イーヴィルワイバーン』で『ジェットダイバー』を攻撃！レッドイレイザー！」

牛尾のライフは残り1600、このまま押せばオレの勝利だ。

「オレはターンエンド！さあ、どこからでも来いよ牛尾」

「騎士^{ナイト}のキーカードが、早くも出て場を支配したぞ！牛尾、コレはピーーーーンチ！」

オレに場は傾いてる、勝利は目前だ。が、牛尾はフツと微笑する。

「オレのターン、『リバーダイバー』を召喚。そして、手札の『レイクダイバー』とコイツをマツチング！」

「おおっと！牛尾は何をするというのか！？」

牛尾の手が輝き始める。アイツ、まさか『ベスト召喚』をしてくる気かよ！？

「大自然の海を恐れぬ不屈の戦士が、敵を海底へ沈める。『ベスト召喚』！出でよ、『ルナテックダイバー』！攻撃力2500！」

「なんとなんと！『ベスト召喚』なる召喚で、モンスターを特殊召喚したぞ！！」

牛尾のヤツ、『ベスト召喚』をかましてくるなんて……。『ベスト召喚』で召喚された『ベストカード』のチカラは、よく解つてゐるつもりだ。

「『ルナテックダイバー』は1ターンに1度、デッキからカードを1枚ドローする！」

ドロー加速の効果、流石に『ベストカード』だ。まだコレだけじゃない、オレのダーク・ジャスティスがそうだったように。

「カハハ、『ルナテックダイバー』はドロー加速の効果でドローしたカードがモンスターカードだった場合！相手フィールド上の最も攻撃力の高いモンスターを、ゲームから除外する！」

くそ、『マッドガナー・エラプション火銃龍王』を失った……。コイツは破壊された時に、相手フィールド上のモンスターを全て守備表示にする効果がある。でも、今回は破壊じゃなくて除外だから効果は発動しない。ヤバイ、場が一気に逆転しやがった。

「いくぞ、『ルナテックダイバー』で『イーヴィルワイバーン』を破壊！」

「罨^{トラップ}カード、『龍王の眼』！相手の攻撃宣言時に発動し、自分フィールド上のドラゴン族をデッキの一番上に戻す事でバトルフェイズを終了させるぜ」

ふゝ、恐ろしや恐ろしや。牛尾はターンを終了した。

「オレのターン！再び『イーヴィルワイバーン』を召喚し、こつちもいくぜ！」

オレも呼び出してやる、『ベストカード』を！

「『ギガドラン』と『イーヴィルワイバーン』を、マツチング！黒き龍の王、現世^{この世}の全ての悪を成して巨悪を討て！！『ベスト召喚』！来い、『ダーク・ジャスティス・ドラゴン』！」

「なんと！騎士^{ナイト}も『ベスト召喚』を、使えたというのかああ！？」

ダークジャスティスは、墓地にドラゴンがあればある程強力な効果を発揮できる。でも、そのデメリットも尋常じゃねえんだな。自分の墓地のドラゴン族の数が4体以下だったら、自分の手札を全部破壊して1枚につき500ポイントのダメージを受ける。でも、そのデメリットはコイツで防げる！

「オレは墓地の、『瓶^{かめ}八竜^{はちりゅう}』を除外してハンデス効果を無効にする！」

そして、除外されてるドラゴン族が増えたからダークジャスティス

は更に強くなる！

「ダークジャスティスは除外されている自分のドラゴン族が2体以上いる時、直接攻撃ができる！^{ダイレクトアタック}罾も張らず『ベストカード』に頼り過ぎだ、馬鹿野郎。つっても、相手は『ベストカード』。ダメージを0にされたら、負けパターンだな」

「カハハハハ！『ルナテックダイバー』が場に在る限り、互いのプレイヤーへの直接攻撃のダメージは半分になる！オレをこのターンで倒す事のは、不可能だカハハハハ！」

だからオレは、最初からコレをココまで残しておいたんだ。『黄金の力餅』、コイツで決めるぜ。

「魔法カード『^{マジック}黄金の力餅』、発動！このターンの間だけ、フィールド上の表側表示で存在するモンスター全ての能力が800ポイント、アップする！いくぞ、ダークジャスティスの攻撃だ！エンドインパクト！！」

「ぐあああつ！おのれ、よくもこのラール様を・・・」

『冷たき魂』は牛尾から抜け出し、消滅した。でもこれから先も、オレはこんな闇のゲームをしなければならないのだ。

「勝者！デュエル騎士^{ナイト}、史城遊太！！」

試合を終え、バースに結果を報告した。バースはそうかと、愛想無く返事する。ところで、バースは勝ったのだろうか？まだ、試合には出ていないのだろうか？

「バース、オマエ試合どうなんだ？」

『オレは明日の一発目だ、相手は野山満のやまみちるとか言っていたな』

何か名前がパツとしねーな、勝っちゃいそうじゃんかよコイツ。

2 - 『冷たき魂』 - (後書き)

もう皆さん大体は解ってると思いますが、『ベスト召喚』のネーミングはポケモンのアニメの名前から戴きました。ポケモン好きだから、魔が差したんだww。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6370t/>

遊戯王 FOR THE BEST WORLD

2011年10月8日20時43分発行